

## 「ぎふの木で家づくりコンクール」で最優秀賞



岡崎さんのこだわりが受賞につながりました

2月23日大宮の岡崎製材所の岡崎定勝さんが八百津町役場を訪れ、赤塚町長に「平成21年度第4回ぎふの木で家づくりコンクール」（主催岐阜県）で最優秀賞を受賞したことを報告しました。

岐阜県では、木の良さを知ってもらい、家づくりなどで岐阜県の木を積極的に使ってもらうように推進する「木づかい運動」を展開しており、この一環として、岐阜県産材を多く活用し、木の良さを活かすための知恵や工夫が盛り込まれた県産材住宅作品を募集し優秀な作品を表彰しています。今

年度は50作品の応募があり、岡崎さんが最優秀賞(1作品)、その他優秀賞4作品、入賞11作品が受賞しました。

岡崎さんの作品は、「池の見える家」と題し、素材や伝統構法を活かしながら、楽しく気持ちのよい住まいにしたいと考え、とことん木にこだわり建てられています。特に大黒柱は、町内の岡崎さんの所有する自然林から樹齢135年の天然松を施主を選んでもらい、目の前で伐採し製材したのを使っています。

岡崎さんは、「様々な建物を見てきましたが、木は日本の風土に合っており、素材や構法をこだわってつくれば100年や200年は十分に耐えられる建物ができます。これからも木にこだわった家をつくり続けていきたい」と抱負を述べていました。



## 児童9人が熱演しました！

3月末に閉校する福地小学校で2月13日、最後の学習発表会がありました。

全校児童9人が保護者や地域住民ら約100人の前で、1年かけて調べた福地の自然、人々、歴史を寸劇やスライドで発表しました。

「福地今昔物語」と題した寸劇では、1944年の校舎の火災でオルガンを持ち出した女性教師や弁論大会で活躍した少年のエピソードなど3話を熱演しました。

学習発表では1年生は「福地の四季」、4・5年生は「お茶と水」、6年生は「福地の歴史と人物」を発表しました。



とても楽しく温かい雰囲気、笑いもたくさんありました